
緋弾のARIA ~死に生を与える者~

勇者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア 〈死に生を与える者〉

【Nコード】

N2404BA

【作者名】

勇者

【あらすじ】

目が覚めると真っ白な空間のなかにいた前田 響は出てきた美少女によって緋弾のアリアの世界に転生させられる。そして、死んだ者に生を与える能力を持つ、それがきっかけで二つ名はネクロマンサー、アリア達と楽しくやっていく

転生

「あれ？どこどこだ？」

俺は今、真っ白な空間のなかにいる

「確か俺は……あれ？思い出せない……どうなってんだ？」

そんなことを考えていたら俺の前に美少女が出てきた

「ん？どっから湧いてきたんだよ」

「私はゴキブリじゃない!!」

そう言って頭を叩いてきた。あ、思い出した。俺の名前は前田 響きょうだったんだ

「まあそんなのどうでもいいけど…君迷子？残念だけど、俺も迷子だから……」

「私は迷子じゃないよ!!君を助けにきたんだよ!!」

「助ける？どついう意味？」

「そのままの意味だよ。君が私の手違いで死んじゃったから私が行き返してあげるんだよ」

「それは助けるじゃなくてお詫びじゃないの？まあそんなのどうでもいいけど……じゃあ早く元の世界に戻してよ」

「あ、それは無理。だって元の世界では今火葬中だから……だから適当な世界に飛ばす」

「……………は？え、ちょっと待て。適当な世界に飛ばす？それだったら死んだ方がいい」

「そういう訳にもいかないんだよ。だってミスっちゃったことがお父様にばれたら面倒なんだもん」

「もういい、わかったからさっさと飛ばしてくれ。君といたら頭が悪くなりそうだよ」

「む、失礼な。あの、申しにくいんだけど………転生するはいいんだけど、そこが物騒な世界なの」

「……………は？おまえはバカなのか？誰がそんなところに行くか、他にしろ」

「そこにしか飛ばせないんだよ。だから転生特典として3つぐらいねがいを叶えてあげる」

「ねがいを叶える？おまえはバカなのか？」

「バカじゃない！私は神様だからできるの」

「じゃあ元の世界に戻してください」

「それ以外で」

「いつそのこと殺してくれ」

「だからそれやっちゃダメなんだって」

「せめてそこがどんな世界なのか教えてくれ」

「君の世界にもあると思うけど緋弾のアリアの世界だよ」

「ああ、なんだ友達が勧めてきたラブコメか。あれ読まなかったんだよな」

「あれはラブコメじゃないよ。あれ、れっきとしたガンアクションとかだったと思うよ」

「じゃあそこに行くんなら……あれだ………えーと、そう！武器よこせ」

「え！？それが出てこなかったの！？まあ渡すけど。あ、これは願いにカウントしなくていいから」

「え、マジで？やった。後は………死んだやつを生き返らせる能力。あ、これはさじ加減次第でゾンビにできる設定で」

「わかった。今やった。で、後二つは？」

「絶対的な実力で」

「あ、それは無理。潜在能力をすべて引き出すのはできるけど」

「ちなみに潜在能力をすべて引き出すとどれくらい強いのか？」

「人間の潜在能力はすごいよ君のは特に優れているから………足技だけでゴジラを殺せるくらいかな」

「……………人間ってめっちゃくだな」

「まあ、人間って実力の何割も出してないって言うしね」

「じゃあそれでいい。後、俺は一分以内に十回死なないとかどうかな？もちろん不老」

「……………君はよくそんなこと思い浮かぶよね普通は不老不死だろ」

「そうか？不老不死だと死ねないからきつと辛いぞ」

「なるほど。まあ、これで終わりと言いたいところだけど、君は気に入ってしまったから、特別に私の未来の夫にしてあげる」

「いらない、そんなのもらうんだっら金を貰う」

「ケチ、そういえばお金ないしあげるよ」

「やった。ってこれめっちゃ入ってるじゃないか」

「そりゃまあ私の未来の夫のために全財産あげてもおかしくないでしょ」

「ふーん、どうやったら2億って単位がたまんだよ」

「宝くじ。まあそろそろ送るから、響君あなたは転校生として東京武偵高に行くことになってるから」

「わかったけど武器は？」

「君が想像したら想像した通りの武器が出てくるよ」

「そんなの頼んでないけどなまあ、ありがとう」

「行ってらっしゃい、ダーリン」

「誰がダーリンだ!？」

「そこは行ってらっしゃいハニーでしょ」

「知らん早く飛ばせ」

「バイバイ」

美少女がそう言うと目の前が真っ暗になった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2404ba/>

緋弾のアリア ~死に生を与える者~

2012年1月6日01時48分発行